## 減災の風を上町台地に、そして上町台地から

日本が災害大国であることは皆、知っている。しかし、自分が災害に遭遇したかといえば、その圧倒的多数に経験はない。ただし、こうとも言える。今身近に災害がないということは、日一日と災害発生のカウントダウンが始まっているのだと。上町台地も例外ではない。現実に突きつけられた被害予測は、さすがの大阪人も「知りまへん」では済まされない。だから、本キャラバンで「減災」の風を吹かせたかったのである。

この間のお付き合いで、この地に根を張る人々の暮らし振りや住まい方に興味を引かれ、また斬新さとの共存を含めたつながりの奥深さやおせっかいが成立するといった「地域コミュニティ力」には驚嘆した。こんなにおもろい街の存在に感謝さえしている。しかし、本当にわかったことは、たった１ヶ月では何もわからないということである。まちづくりのキーワード「若者・ばか者・よそ者」のよそ者として、こうなったら意地でも「減災」のエキスを注入し続けようと思っている。過去の『智恵』を参考に、これからも『知恵』を絞りたい。

栗田暢之（(特活)レスキューストックヤード）

謝 辞

この展示は、「減災キャラバンon上町台地」の開催を支援されたみなさまをはじめ、多くのご尽力によって実現しているものです。心からお礼申し上げます。

協力：五百井正浩さん、上町台地からまちを考える会、應典院、呉光現さん、からほり倶楽部、高津宮、(特活)コリアNGOセンター、白石喜啓さん、直木三十五記念館、萌、まち・コミュニケーション、吉椿雅道さん、練、ロジモク研究会、そのほかのみなさま（50音順）

**U-CoRo独案内（ゆーころ・ひとりあんない） vol.09**

NEXT21/U-CoRo ウィンドウ・エキジビション 09
「"減災キャラバンon上町台地" の道程から」(2009.9.7～2010.1.29)
大阪市天王寺区清水谷町6-16 NEXT21 1階北U-CoRo

発 行 日　2009年9月7日
企　　画　U-CoRoプロジェクト・ワーキング
編　　集　橋本 護／早川厚志／弘本由香里　　デザイン　小倉昌美／北浦千尋
編集協力　(特活)レスキューストックヤード(RSY)
　　大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）
発　　行　大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所(CEL)
　　大阪市中央区平野町4-1-2
印　　刷　(株)国際印刷出版研究所

この冊子、企画内容に関するお問合せ先　TEL:06-6205-3518(担当：CEL弘本)
※NEXT21の3階以上は住戸フロアとなっておりますので、立ち入りはご遠慮ください。

表紙図版："減災キャラバンon上町台地" の巡回パネル展の様子（應典院1階ギャラリー）
独案内(ひとりあんない)＝まちや物事に不案内な人を助ける携帯便利な冊子のこと
この冊子は環境に優しい再生紙を使用しています

# ごあいさつ

2年前（2007年秋～冬）、全国をめぐって減災に取り組む（特活）レスキューストックヤード（RSY）や大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）のみなさんが、大阪ガス実験集合住宅NEXT21/U-CoRoのウィンドウを通して、上町台地に貴重な智恵の種を届けてくれました。災害の現場から紡ぎ出された智恵を集めた、ストーリーブック『いのちをまもる智恵　減災に挑む30の風景』の展示です。

減災の智恵の種は上町台地で小さな芽を吹き、少しずつ根を広げ、2009年春、上町台地の4会場を巡回する「減災キャラバンon上町台地」*が繰り広げられることとなったのです。キャラバンがめぐった4つの会場は、いずれも“いのち”のつながりに思いを馳せることのできる特徴的な場所です。お寺で、神社で、長屋のまちで、“その日”への向き合い方を大いに語り合いました。

U-CoRoウィンドウ・エキジビション第9弾となる今回の展示「“減災キャラバンon上町台地”の道程から」では、地域に根差す土の人と、地域外から智恵を運ぶ風の人がともに歩む減災への道程に光をあて、その第一歩の物語をご紹介します。旅はまだ始まったばかりです。ぜひ次の一歩を、ごいっしょに踏み出す機会としていただけましたら幸いです。

主催：大阪ガス エネルギー・文化研究所（CEL）
共催：（特活）レスキューストックヤード（RSY）
　　大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）
企画：U-CoRoプロジェクト・ワーキング

*2009年2月1日～2月28日＋3月13日に開催、（特活）レスキューストックヤード主催

U-CoRo ウィンドウ・エキジビション 03（2007年秋～冬）の際の展示風景

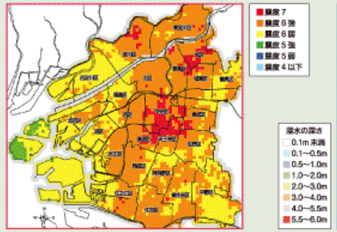
※ U-CoRo（ゆーころ）とは、NEXT21の1階「上町台地コミュニケーション・ルーム」の愛称です。
この窓をインターフェイスに、上町台地の時空につながり、出会いを紡ぎ、暮らしを育む取り組みを少しずつ重ねていくことができればと願っています。

# 上町台地の成り立ちと災害リスク

縄文時代から古墳時代までの大阪平野の変遷図を見ると、平野部の大半が陸地化してから間がないことが分かります。また、上町台地とその東側の河内平野を範囲とする土地条件図では、中央部を走る黄色の帯から300年前に付け替えられる前の旧大和川河道が浮かんできます。さらに、平野部には自然堤防と呼ばれる微高地が点在し、昔の村はその上に立地していることも見えてきます。

こうした土地の履歴を念頭に置くと、ハザードマップの見方も違ってきます。例えば、比較的地盤がしっかりしていると言われる上町台地上でも、震度分布に細かい強弱があることがうかがえます。また、内水氾濫時の浸水予想図では台地上にもわずかながら浸水が予想される地域があります。その背景には台地を刻む数々の谷、埋め立てられた池やくぼ地など土地の履歴も影響していることが分かってきます。「上町台地だから大丈夫」と過信せず、愛する土地であるからこそ、その変遷を見つめ直し、そこで暮らしていくための覚悟と工夫を怠らないようにすることが肝心ではないでしょうか。

**上町断層帯地震で想定される震度**




**内水氾濫した場合の浸水被害**

資料図出典：大阪市ホームページ　http://www.city.osaka.lg.jp/shimin_top/category/700-7-3-0-0.html

**大阪平野の変遷**

『続大阪平野発達史』（梶山彦太郎・市原実、1985年）の資料ほかをもとに作成

現在の土地条件図（国土地理院）

# 減災キャラバンon上町台地
## ～災害からいのちと暮らしをまもるために

上町台地は戦前の室戸台風以降は幸いにも大きな災害に見舞われることなく過ぎていますが、最近話題の上町断層帯が直近にあること、都心居住の地として人口が回復しつつあることなどもあって、防災・減災への動きが広がってきました。そうした地元地域に先達の声を伝え、防災・減災について考える機会をつくるキッカケとして、（特活）レスキューストックヤード（RSY）と大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）は、上町台地上での「いのちをまもる智恵」のパネル展示を、からほり倶楽部や應典院、高津宮など地元組織とともに行いました。このパネル展示は、上町台地で巡回展示し、併せて、『リレー・トーク』と題した小さな集まりも開催。展示場所ゆかりのテーマや人に登場いただき、参加者とともに“今”と“これから”を語り合う機会となりました。

**減災キャラバン on 上町台地**

**開催期間**：2009年2月1日～28日＋3月13日　**開催場所**：應典院、萌、高津宮、練
**主　催**：（特活）レスキューストックヤード
**共　催**：應典院、應典院寺町倶楽部、高津宮、からほり倶楽部、ロジモク研究会、上町台地からまちを考える会、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）、（特活）コリアNGOセンター
**後　援**：大阪市、（社福）大阪府社会福祉協議会、（社福）大阪市社会福祉協議会
**協　力**：練、萌、六波羅真建築研究室、長屋すとっくばんくねっとわーく企業組合、直木三十五記念館、CEL/U-CoRoプロジェクト・ワーキング、三帰会、上町ぶんか機構、まちづくり工房　など

# ストーリーブック『いのちをまもる智恵』

「日本列島を襲う相次ぐ災害から、どうすれば難を逃れることができるのか。また、実際の災害現場で被災者はどのようにしていのちや暮らしを守ったのか」

（特活）レスキューストックヤード（RSY）では大阪大学のコミュニケーションデザイン・センター（CSCD）などとともに、昔から現代まで災害に遭った全国各地の現場から、減災にまつわる30のエピソードを取材し、『いのちをまもる智恵』という冊子に編集しました。

初版装丁（上）と新版装丁（下）

**『いのちをまもる智恵　減災に挑む30の風景』**（2007年3月30日発行）
**監修**：「いのちをまもる智恵」制作委員会
**発行**：（特活）レスキューストックヤード
**編集・企画・構成・アートディレクション**：花村周寛
**編集協力**：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター　渥美公秀／関 嘉寛／菅磨志保、名古屋大学 宮下太陽
**ストーリー・タイトルコピー**：花村周寛　**イラスト**：中村 妙　**取材・解説文**：吉椿雅道

※（特活）レスキューストックヤードのウエブサイトに、『いのちをまもる智恵』の概要が紹介されています。　http://www.rsy-nagoya.com/wisdom/
また、同サイトで、『いのちをまもる智恵』の本を購入することができます。
http://www.rsy-nagoya.com/eccube/html/products/detail.php?product_id=11&PHPSESSID

# 減災キャラバン on 上町台地

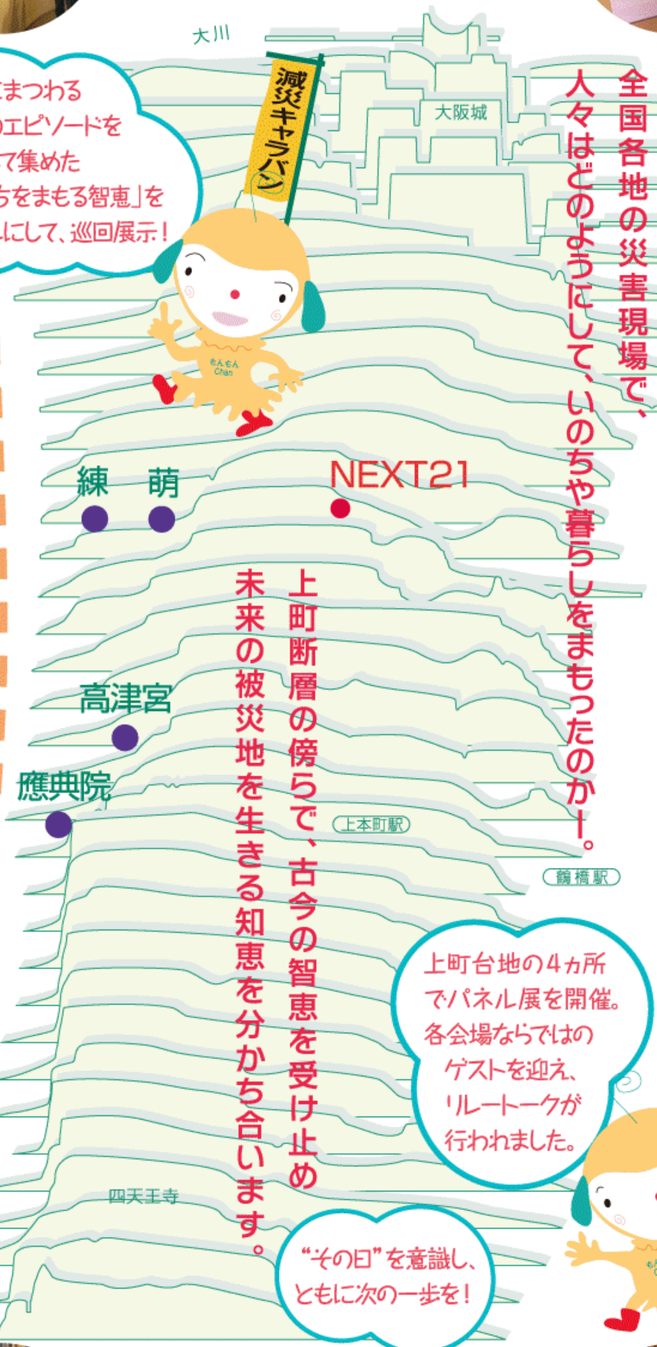
ドキュメント

2009年2月1日〜28日＋3月13日

## 減災の風を上町台地に！

全国各地の災害現場で、人々はどのようにして、いのちや暮らしをまもったのか！。

上町断層の傍らで、古今の智恵を受け止め未来の被災地を生きる知恵を分かち合います。




減災にまつわる全国のエピソードを取材して集めた「いのちをまもる智恵」をパネルにして、巡回展示！

上町台地の4ヵ所でパネル展を開催。各会場ならではのゲストを迎え、リレートークが行われました。

"その日"を意識し、ともに次の一歩を！

リレートーク第１回目

## 僧侶の覚悟

### いつか出会う被災死への向き合い方

開催日：2009年2月6日
ゲスト：秋田光彦氏（大蓮寺、應典院住職）
五百井正浩氏（玉龍寺住職）

應典院

第1会場 2月1〜7日 應典院

＜語られた言葉から＞

被災地では所属は通用しない

なぜあの日、（死者が）私でなかったのかという自問がずっと続いている

寺は日常を非日常につなげる ー アートと一緒

（秋田光彦氏）

＜語られた言葉から＞

悲しませてあげることも支援

亡くなられた方への尊敬と、遺族への配慮

被災者が感謝の念を持って生きるには

（五百井正浩氏）

大震災に遭遇した僧侶として、今も震災に向き合いつづけることの意味が説かれ、日常と非日常をつなぐ場所として寺院が果たしうる役割が語られました。

應典院本堂ホール

減災ストーリーブック『いのちをまもる智恵』の制作に携わった、花村周寛氏、吉椿雅道氏とまち歩き

人が「文化」を守るだけではなく、「文化」が復興の力になっていく

日常をしっかり生きることが大切　（吉椿雅道氏）

まち歩きトーク 2月15日

ノスタルジーだけでは町は守れない

現状へのシビアな眼差しと、旧来の情緒やつながりを両方満たす方が、クリエイティブだと思う

（花村周寛氏）

リレートーク第３回目

## 避難所の覚悟

### 避難してくる被災者への向き合い方

開催日：2009年2月20日
ゲスト：小谷真功氏（高津宮宮司）
田中保三氏（まち・コミュニケーション顧問）

高津宮

＜語られた言葉から＞

神社は社会の共有財産

民のかまどはにぎわいけり

都会のなかで交流できる場に

（小谷真功氏）

＜語られた言葉から＞

神社は本来清い心を養えるところ

モノはなくなっても、ヒトがいて復興した

官と民の間の「公」が重要　（田中保三氏）

第3会場 2月15〜21日 高津宮

震災時の教訓をうかがい、上町断層が動くときには大勢の避難所となるだろう高津宮としての覚悟や具体的な対応について意見が交換されました。

高津宮（高津の富亭）

U-CoRo制作の上町台地立体模型を常設展示

2008年にU-CoRoで制作・展示した上町台地の立体模型が、地域学習素材としての活用などを目的として、練の1階に恒久的に設置されています。お立ち寄りの際には、ぜひご覧ください。

リレートーク第２回目

## 対話の覚悟

### "その日"をともにする他者への向き合い方

開催日：2009年2月13日
ゲスト：呉光現氏（聖公会生野センター総主事）
渥美公秀氏（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）

文化複合施設・萌

第2会場 2月8〜14日 萌

＜語られた言葉から＞

対話とは相手のことに関心をもつこと

共存はしていても、共生はしているか

多文化でなく「他文化」に目を

（呉光現氏）

本気で対話しようとするなら皮膚感覚

まちの一体感つくるには、気づいた人が与え続ける

それでもがんばってる人を応援する、一緒に行動する

（渥美公秀氏）

異文化間での"その日"に向けた、「対話の積み重ね」や「共存から共生へ向かう関係性づくり」など、取り組むべき課題が浮かび上がってきました。

直木三十五記念館（第２階）

お屋敷再生複合施設・練

リレートーク第４回目

## 路地の覚悟

### 長屋のまちでの"その日"への備え方

開催日：2009年2月27日
ゲスト：六波羅雅一氏（からほり倶楽部代表理事）
白石喜啓氏（㈲ライフ・ステージ代表取締役、地域住民）
菅磨志保氏（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター講師）

＜語られた言葉から＞

防災は事前に組み込んでおくべきプロセス

（菅磨志保氏）

第4会場 2月22〜28日 練

まちへの興味で減災も変わる

（六波羅雅一氏）

このまちのよさ見つめなおせた

（白石喜啓氏）

サロンdeありす（練２階）

長屋のまちで起こりうる被害について考え、現実をしっかり受け止めたうえで、減災の智恵を積み重ね、いかにその実を上げていくかについて語り合いました。

展示風景、リレートーク、まち歩き撮影・コメント編集：関口威人